

議会基本問題調査特別委員会（第12回）

日 時 平成29年2月9日（木）

9：00～11：03

場 所 議会棟 第2会議室

出席者 委員長、副委員長、委員9名（欠席：なし）（傍聴者：1名）

説明員 なし

書 記 井川主事、岩崎事務局長

○坪倉委員長 皆さんおはようございます。ただいまから第12回議会基本問題調査特別委員会を開会致します。本日は、レジメに日程を掲載してありますような事柄で進めていきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。それでは最初に議員定数等のアンケート調査結果のまとめについてということではありますが、前回の委員会で町民へ配布するアンケート結果の内容について協議をいただきました。それを受けまして私として特にコメント部分、その他意見のところについて集約をするということを進めておりましたが、実のところ本当に種々多様な意見をいただいております、皆さんの意見を出来るだけ取り込んでという思いで調整をいたしました結果、お手元に配布の通り要約をしました。特に1点最後に意見として付けておりましたA4の1ページ分の資料については、要点のみを掲載させていただいております。84番ですかね。他のところにもその趣旨というのは繁栄されておるとは思いますけれども、そういったところにまとめさせていただきました。最終的にページ数が多くなってはおりますけれども、アンケートにおいていただいた意見を出来るだけ反映させようということでもまとめましたが、いかがでありましょうか。山本委員。

○山本委員 今話題になっておりますところの、別紙でいただいた1枚ものの意見ですけれども、この綴りでいきますと後ろが1枚空く白紙になっておりますけれども、もしここが空くようでしたらそのまま載せていただいてもいいんじゃないかなと思っております。そのページのやり繰りのところですが、いかがでしょうか。

○坪倉委員長 皆さんの意見をどんどん出していきたいと思っておりますけれども、最初の1ページ目と言いましょか、表紙にありますように議会報告会及び意見交換会の検討結果と併せてということでもあります。意見交換会の検討結果が最初に2ペー

ジから載って、その後にアンケート結果について掲載をするという手法を取りたいと思っておりますので、最終ページがどこになるのかがわからないというところが現時点であります。基本的にどうでしょうか。いただいた意見を全て載せる、1ページ分載せるべきなのかということですが、他のいただいた意見も要約した点があります。そういう点からしてさっきありました3行のみならず、他の部分に反映されたところも他の意見に反映されたところもあるとすれば、これでもいいのかなと私は判断したところですが、いかがでありますでしょうか。

○久代委員　それで私もいいと思います。ある程度要点筆記というか要約してある部分もあるので、意見を出された人の要旨が掲載されておるようなので私はそれでよしとすべきじゃないかなと思いますけれども。一言一句という点では他に割愛される部分もあるので、それでいいじゃないかと思えますけど。

○坪倉委員長　そういう意見に賛同の方が多いようではありますが、この3行にエッセンスと言いましょか、中身が意見の重要な部分が集約されておると理解をいただけますでしょうか。13ページの中段区切りの上側です。近藤委員。

○近藤委員　私も特に書いてもらった意見の方は議会に対する意見ということで、自分達がこれを読んで勉強すれば良いわけでありまして、要点筆記という形で町民の皆さんには公開することで十分だと思います。この内容は自分達が肝に銘じておればいいじゃないかと思っております。

○坪倉委員長　よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○坪倉委員長　細部にわたって修正すべき意見等ありましたら、発言をしていただきたいと思います。よろしくお願ひします。それでは議員定数等のアンケート調査結果のまとめについては。久代委員。

○久代委員　ホームページの公開はどの時点でされますか。皆さんに配布してから公開なのか、一応皆さんこの特別委員会で了解が得られればホームページの公開はいいじゃないかなと思いますけども。どの時点でされるかということを一応今再度チェックを入れてということですね。

○坪倉委員長　各世帯へ配布する時期にホームページに掲載をするということを考えていますが、皆さんいかがでしょうか。それで3月定例会には結論を出すということで今のところ進めておりますが、そういうスケジュール感からすると意見交

換会でのいただいた意見への回答も含めて、その後ということになると思いますし、議長の担当なんですけれども意見交換会への意見に対する回答も併せてということになりますと3月の町報配布時ということになるのかなと思います。

○久代委員　とすれば日程的にアンケートの集計結果を広報で配布したということは3月25日発行ですよ。配布は27日から始まりますけども。とすれば議会最終日までに町民に届かんとということになりませんか。日程的に。

○坪倉委員長　3月定例会の日程まだ決まっていますがその可能性は高いですね。

○久代委員　議会で議決する前にそれでも最低の情報は日程的にどうでしょうか。無理でしょうか。今日今からこの意見交換会の検討するわけけども。2月25日発行に間に合わせることは出来ませんか。その辺ちょっと検討してみてもらいたいと思いますが。

○坪倉委員長　皆さんの意見を出していただきたいと思いますが、アンケートは今日の委員会で皆さん了解が得られれば出すことは出来ますが、意見交換会の部分最終的に今日の表も見てもらえば分りますけれども、議員定数に直接関係する部分については今のところ空欄にしております。そのことはこの特別委員会の結論を持ってそこに書き込むべきだなと判断をしておりますので、意見交換会の意見の取りまとめについての公開は3月定例会以降になると私も思っていますし、議長との話もそういうふうにおおるところであります。村上委員。

○村上委員　委員長の方から報告があったように、初回辺りの議会報告会の報告も基本的には3月末でやっていたのをたまたま前回の選挙前の時に次に選挙があるから2月末にやろうという経緯で2月末になったという経緯があります。それで今回の場合には議員定数についてもまだ残り2年がありますので、十分に町民の皆さん方には1年前の周知という部分にすれば十分出来るんで、あえて丁度3月の定例会で結論を出すんだからそれ以前にという形じゃなくてもいいんじゃないかなという思いはしていますけれども、皆さん方のご意見をいただきたいと思います。

○坪倉委員長　他の委員、皆さんありませんでしょうか。

○村上委員　これで結果的に意見交換会のページ数と例えばこの議員定数の関係のページ数とで一冊に綴じてるんですよ。そしたら何ページくらいなるんですか。

○岩崎事務局長　今予定していますのはこのアンケートが15ページ、それから意見交換会の方につきましては現在まだ取りまとめが出来ていないのが、この議会基本問

題調査特別委員会の分と経済福祉常任委員会の分でございます。このページ数が4ページ程度は必要になろうかと思ひますし、そうしますと全体で30ページ A3を半分に折りまして要は A3が1枚で4ページとなりますので、A3が8枚分32ページぐらいで何とか収められればと思っております。

○坪倉委員長 後ほど協議をいただきますけれども、この整理については今空白の部分はかなり集約出来るのかなと思ひますのでよろしくお願ひします。時期的には3月定例会終了後になる可能性が高いですけれども、3月末の配布物と町内への配布物と同時期ということによろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○坪倉委員長 そういうふうに進めさせていただきます。それではアンケートの調査結果のまとめについては以上でよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○坪倉委員長 それでは次ですけれども、2番の議員定数の前に3番の議会報告会・意見交換会にかかる検討課題の整理ということで、こちらを先に進めさせていただきますと思ひます。今委員会での回答案というところに記載がしてありますが、前回私が提示した案に対して皆さんから意見をいただき、修正すべきだという意見をいただきましたので若干修正をしております。ご確認をいただきたいと思ひますが、上から2段目のところで「一般会議については参考人制度、公聴会制度の活用や、特定の課題について町民との意見交換会等について取り組みを進めます」ということで参考人制度、公聴会制度の活用という部分を追加しております。それから報酬政務活動費の部分についてであります、報酬の大枠の段の3段目の下段の方です。「議員報酬と政務活動費との性格が曖昧であることや混同の誤解を生む恐れもあり導入については考えていません」といたしました。すみません、一番左の区分の報酬政務活動費の最後の費が余分でありました。一字削除をお願いします。それとその他の一番下ですけれども、全体の奉仕者というところで理解をいただいた委員や、理解が難しいと言われた委員もおられたんですが、そこに議員としてという言葉を入れました。いかがでしょうか。それから2ページの下の方から3ページ目にかけて、前回空白だったところに意見を入れてみました。皆さんの意見をいただき協議して参りたいと思ひますが、一つずついきたいと思ひます。2ページ目の方ですけども「議員定数に対して候補者が満たない選挙について疑問がある。定数を減らしてでも選挙にならないと思う」と

ということにつきましては「議会及び議員の活動のあり方や選挙運動のあり方等について、町民の意識改革も必要であると思います」としております。全てにおいて町民の意見、非常に重みのある意見なんでありましてけれども、それを全て現職である議員にその対応策を求められるというのも、議会制民主主義の中から言いますと若干疑義があるところでもあります。やっぱり議会なり町政町民が主役であり本旨でありますので、やっぱりそこは議員に求めるばかりではなくて、町民の側にもしっかり考えていただきたいという思いを若干綴っております。久代委員。

○久代委員　その意識改革という表現より町民の町政への積極的な参加みたいな表現の仕方の方が、あんた方の考え方もおかしいじゃないかみたいな表現よりはやっぱりより積極的に。要するに選挙運動自体が町政への参加活動だけね。あらゆる選挙たまたま町議会議員選挙もあるけども。国政だって県政だっていろんな選挙があるわけだから、やっぱり政治への参加意識を促すような、これと言えば町政の参加意識を高めてもらいたいとか、そういう文言の方がいいじゃないかなと思います。意識を改革というのはちょっとある意味失礼かなと思いますが。

○坪倉委員長　久代委員からそういう意見でありますかどうか。近藤委員。

○近藤委員　それと一つこれ選挙運動のあり方というのはどういうことを表しておられるんですか。選挙運動のあり方というのがちょっと自分わからんですが。

○坪倉委員長　選挙運動と書いてしまいましたが、選挙そのもの或いは選挙活動ということでありまして、一つは町民が立候補しやすい環境といいたいでしょうか、条件といいたいでしょうか。そういったところについてのあり方が出来ないのかなと思っております。ここの先程言いました選挙のあり方ということについて、選挙の公営制ということが法律にあります。選挙運動候補者のみだけでなく一定の部分の活動について、町が経費をみるとか活動を支援するという、いわゆる選挙の公選制という考えがあります。その辺のところをもう少し追求してみたいなという思いもあって書いたんですが、現在の法律のところでは日南町が行っておる選挙の公営制については、これ以上踏み込んだ取り組みが出来ないということが昨日今日分りましたので、この辺については書き方がどうなのかなと思っております。ですので久代委員が言われましたように、町政への参画意識を持ってもらいたいというような、議会及び町政への参画意識を持ってもらいたいというような表現にしてもよろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○久代委員　　今近藤委員が言われたことも含めて。選挙運動はまさに候補者や例えば支持される人が独自にそれぞれの自由な方法で作るものであって、運動のあり方には今さっき言われた公営掲示板とか選挙葉書とかいう公営部分があって、それはそれで町がやっておるわけだから、運動のあり方そのものにもそれぞれの自由な意志があって、例えば選挙広報もあるわけだけどそれぞれに独自のいろんな運動をされるわけだから、それはあまり踏み込まない方がいいんじゃないかなと思います。立候補しやすい町政に参加してもらおうということがまず第一かなと思いますのでよろしくお願い致します。

○坪倉委員長　　ですからこの選挙運動という文言は削除いたします。町政に参画をしていただく気運を高め、町民全体として盛り上げていただくような表現にいたしたいと思います。それから一番下については「一部は削減を求める声もあります」ということにしております。3ページ目ですけれども「方向性は町民が議論するものではなくて、議会も町民も含めて議論し方向を出すというのが本筋である」という意見や「議会の内容について一番理解しているのは議員なので、町民に意見を聞く必要があるのか」ということ。「議員定数が多いか少ないかは判断出来ないで、議員の意見を聞いて我々も判断したい」という意見。「最終的には住民がどれほど議員を必要としているかの話になる」ということで4点そこにまとめておりますけれども、回答として「議会は議員だけのものだけでなく町や町民全体のものであり、広く議論すべき事柄だと思います」というふうにしております。いいですか。その次ですが「何名おれば議会運営出来るのか」ということですが「議会の運営は少人数でも可能と考えますが、議会での議論や政策決定により多くの民間が反映されることが民主主義の本旨だと思います」と書きましたがいかがでしょうか。この辺のところなんですけれども、いわゆる合議体としての組織として、最低何人おれば良いのかということなんですけれども。合議体として成立するには最低3人とされておりまして。そういう中で議会制民主主義の議会については、以前の話なんですけれども東京大学におられた大森彌先生によりますと、議会として3人で合議体は成り立つんだけど、やっぱり4人は必要だろうなど。1人が議長ということになると3人だと意見が割れた時に議長の権限がすごく重たくなりやすいということで、議会として最低人数は4人であると見解を出されております。ですから理論上は少人数でも可能だという意味であります。よろしいですか。近藤委員。

○近藤委員　可能ですがの考えますがどうか。細かいこと言ってすみません。可能と考えますがというのが、可能ですが議会での議論やの方が今委員長が言われたことに当てはまるんじゃないかと思うわけだけどもね。

○坪倉委員長　どうでしょうか。

○久代委員　可能ですがの方がいいかもしれんな。

○坪倉委員長　考えますはいらぬということですか。荒木委員。

○荒木委員　現実的な問題で本当に3人4人と少人数で可能であるとは考えられない。具体的な人数は書いてないですけども。実際に少人数で可能かどうかというのは、可能でしょうか。私はちょっと疑問があるんですけど。民主主義の中で少人数で実際に議案を進めていくということに対して、あまり少人数では民意が反映出来ないと考えます。

○坪倉委員長　先程3人4人という理論上の数字を申し上げましたけれども、何人おれば議会運営は出来るかという問いに対して、8人なら出来ますとかそういうことが書きにくいわけです。現時点で。

○久代委員　最終的に多数決ということで決議するとすれば3人だけんな。ただし1人議長が出るということで、どこの議会もほとんどが偶数になつとるわけです。要するに賛否が議決出来るということから。ですから少人数でも可能ですがというのが、この問いに対しては私はこれでいいと思う。ただし、そのあとの言葉が大事であって、多く民意が反映される手法について語られているので、それでいいじゃないかなと思います。

○坪倉委員長　よろしいですか。考えますという言葉は削ります。その次であります。「議員は諦めムードなのか」という意見をいただいております、ここについて決して諦めているわけではありません。主義主張が違っても議員各位が議会活動を通じて町政の発展を目指しています。

○久代委員　私、前後の発言がわからなけれど、何に対して諦めムードなのかというのがなければ、なんかいきなり議員は諦めムードかという問いでない方がもっと分かりやすいと思いますよ。何を議員は諦めておるのかということが分かりませんが。

○坪倉委員長　ちょっと私もそこを詳しく確認をいたしておりますが。どこの会場だったか分かりませんが、そこに出席された委員の皆さんの発言を含めて。局長。

○岩崎事務局長　この問いがどこの会場で出たかということと、その前後の発言等を再度確認いたしまして質問の意を確認したいと思います。

○坪倉委員長　この点については若干時間をいただきたいと。後ほど協議をいただきたいと思います。その次ですけれども「以前から定数について議論があるが、どのような理由であがったのか」ということや「検討中というのは減員の検討か」という意見に対しまして「減員ありきの検討ではなく、本町自治にとって適正な議員定数の検討をしています」と書きましたがよろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○坪倉委員長　次「議会基本問題調査特別委員会の中で議員定数について議論されたのか。議論された結果、方向性はどうなるのか」というところでありますが、そこに書いておられますが、それこそ3月末発行ということになりますとこの書き方が変わってくると思っておりますのでよろしくお願いします。それから最後ですけれども「議員定数については、国の基準はないのか。定数は選挙人名簿数で決まるのか」というところなんですけれども「議員定数について国の基準や算定方法は決まっています」としております。よろしいでしょうか。空白のところはこれから定数に直接関わる議論の中で、議論を踏まえてまとめていきたいと思っておりますので後ほどよろしくお願いします。意見交換会に係る検討課題整理についてはよろしいでしょうか。それでは議員定数についての議論を本格的に始めていきたいと思っておりますが、これまでアンケートや意見交換会等で、多くの町民から意見をいただきました。それも踏まえて今後の議論を進めて参りたいと思っておりますが、今日の資料ファイルのタブレットの17ページから後に少しばかり資料を付けております。これは北海道大学の神原先生が議員定数等に対する議員定数と報酬の議論する上での論点視点についてまとめられたものであります。この資料は昨年8月に行いました島根大学の磯村先生の講演の資料の中に添付されていたものであります。そういったところもこの資料も参考にさせていただきたいと思っておりますし、また本日の委員会で紙資料として配布しました、1紙のものも参考にさせていただければと思っております、僭越ながら私が準備をさせていただきました。上から2段目の括りにある議員定数を定める要素の括りがありますけれども、いわゆる議会の根幹に関わる重要事項であります。そこに記載している文言は議員必携の議会定数に関するところに記載をされている部分の要約をした抜粋であります。これらも参考にさせていただきながら議論を進めていただきたいと思いますと思っております。そういうことであ

りますが、再度議員定数そのものの議論の前に確認と言いましょうか、議会そのもののあり方或いは議会制民主主義のあり方等について、若干皆さんの意見交換をすればなど考えております。そういうことからして、本日配った紙資料の1番から3番について、こういうことについて皆さんはどう考えておられるのかということについて、議論が出来れば良いなと思っておりますのでよろしくお願いをいたします。これまでの議員活動の中で各議員さんそれぞれ、議員定数のあり方についてお考えをお持ちであろうかと思えますけれども、そこはやっぱり議論をする中で考え方が変わっていくというのも当然あることだろうと思えますし、初志を貫かれるという方もであろうかと思えますが、やっぱり町民の代表として議席に着いている私達でありますので、その辺も含めての、すいませんその辺を含めては別ですけれども。代表でありますので公の場で議論をし、合議体としてのまさに討論、討議をしていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いをしたいと思えます。町民のアンケートにも本当に議会そのものに対する不信感、無用論を含めた不信感や期待感も沢山いただいておりますし、議員各自に対する厳しい意見も沢山いただいております。それらを踏まえて議会として議員としてどうあるべきなのかというところの辺の議論をしていきたいと思えますが、1番の議会活動について民意の調整統合。正しく町民足すそれぞれが一人一人のお持ちの意見を代表する議員が、どう整理統合していくのか。そういった討議、議員間での討議や合議体としての組織としての役割、そして権能の発揮。議会にあります10項目ばかりの権限、義務もありますけれどもそれらの権限義務をどう町民の付託に答えて発揮していくのかそういったところ。定数に直接関わりますけれども常任委員会の構成、適正な人数そういったところもあると思えますし、町民との関係、意見交換会或いは傍聴など、いわゆる広報広聴活動のあり方などもあると思えますし、町長との関係執行機関と議会がどうあるべきなのか。法律では二元代表制ということで、対等な立場にあるとされておりますけれども、そういった機能のあり方等についても意見が交わされたらいいなと思っております。それから議員活動については簡単にしておりますけど、やっぱり町民との関係。いわゆる皆さん選挙を経て議員になっておられるわけでありましてけれども、それらのいわゆる支持者、支持母体、支持団体あたりとの関係で、そういう支持をいただいている方々との関係それぞれあると思えますけれども、広く町民の意見をどう議員活動の中で吸収していくのか。議会の発言や評決に活かしていくのかという所の考え方。それから町長との関係とい

うことにしておりますし、その他では町の面積や地理の関係も町民からの意見にもありましたけども、そういったところも考慮する必要があるのかなと思っておりますし、選挙。この選挙については先程ふれましたけれども、選挙の公営制あたりをもっと踏み込めないのかなと思っておりましたが、なかなか難しいようではありますが選挙のあり方等について。それから町民の意識喚起、説明責任というようなこともあるのかなと思いつくままに拾い出したところでもありますけれども、議会活動議員活動について意見を述べていただければありがたいなと思っております。ということで若干一方的に話を少し考える時間も必要かなと思っております、10時まで休憩をいたします。再開は10時といたします。

(休憩 9:42~10:00)

○坪倉委員長　それでは休憩前に引き続いて、委員会を再開いたします。休憩前に申し上げましたように、これから時間限られると思っておりますけれども、議員同士での意見交換、協議をしていきたいと思っておりますがどなたからでもいいですが発言ありますでしょうか。久代委員。

○久代委員　アンケートの調査結果と意見交換会で出た、直接皆さんと顔を合わせてお話した内容と大きくとは思いませんけれども、それにしても50数%の定数を減らすべきだという意見がかなり多かったということを私なりに分析しているわけですが、やはりこの間、議員定数が日南町でもアンケートの資料にも載せていますけれども、一番最初発足した昭和34年が24名、人口が約1万5,000人。私が議員に出させてもらったのが平成11年でしたけれども、その時には16名でした。そのあと12名に平成19年に4名一気に削減したわけですが、この時おりしも丁度小泉改革の中で町村合併というのが鳥取県内でもありますが、それによって議員定数が町村合併してそれぞれの町村の定数でなくて、新たな定数を決めるということで大きく削減された経過もあります。とはいえ議員定数を減らしたからといって、やはりずっと16名の時も12名の時も、ほんと少数1名オーバーないしは2名オーバーというふうなことで、前回初めて2年前の町議選で無投票になったわけだけでも、定数削減が無投票ではなく選挙にすべきだということは、必ずしも当たらないのも一面あると思うんです。むしろ定数が多かった時の方が意味2、3名オーバーで激戦をされたという経過からみても、やはり立候補して住民代表として議会に望もうという人の気持ち、さっきも議論があったけども町政に対する議員として出ていくことによって、

いろいろな住民代表として活動が出来るということへの我々の責任もあるわけですが、理解を促していくことが必要じゃないかなと思います。これまでの経過を振り返ってみて。やはり私はいろんな意見があるのをざっくり言うと、やっぱり町民の皆さんの暮らしも非常に大変な状況になってきているし、議員報酬のことについても触れられていますが、やっぱり本当に議員がそれなりの報酬をもらって仕事をして、我々はそれぞれみんな一生懸命やっていると思っっているけども、自分らの暮らしはどんどん逼迫してくる状況の中で、本当に皆の暮らしを守るためにはもっと頑張ってもらいたいという気持ちじゃないかなと。裏を返せばそういう声にもなっているのじゃないかなと私は読み取りました。この間本当にいろんな意味で介護にしても医療にしても、特に農産物米あたりにしても、本当に所得がものすごく減る中で負担増が強いられとる状況が一方であって、その点では国政との関係にもなるけれども、やっぱりそこにバッシングというかそういうものがあるじゃないかなと思います。特にこの間公務員の給料についてもいろんな不祥事は置いておいて、公務員バッシングも小泉時代から始まって地方公務員或いは議員に向けられたのがあるので、このあたりも冷静に考えて見る必要があるじゃないかなと思っています。結論から言いますと議員定数は総合的に考えて、日野郡3町や他の町村の人口或いは面積も踏まえて、やっぱり本当に広く民意を町政に届けていくという意味で現状維持がいいじゃないかなと今考えています。以上です。

○坪倉委員長 他に近藤委員。

○近藤委員 住民との意見交換会というか議会報告会の結果と自分が感じたことと、それからこの度のアンケートを取ったことが余りにも解離していて、ちょっと自分としてもなかなか考えがまとまらないというのが実際ですけど、この度のアンケートの結果に対しては真摯に受け止める気ではおりますけど、その中であって議員定数を減らした方がいいという意見の自分なりに要約した中では、要するに無投票とか定員割れに関する心配しているから減らしたらどうかという意見と、議員の質が悪いから減らしてもいいじゃないかということ。それから議員としての活動が見えないから減らしてもいいじゃないかというような、自分はこの3点を特に要約してそれに対して自分がどういう考えを持っておるかということ色々考えてみましたが、特に議員の質に対してですけど自分もこの度出てまだ2年満たないわけですけど活動に対して、以前の議員さんよりも果たして低下したのか、また議員としてのこれは大変失礼です

けど、それよりも議員の仕事が以前の議員よりも仕事量が減ってきているのかいないのかということ、それから町のチェックが足りないとありましたけどそれが委員会特に自分が言いたいのが委員会活動の町民に広報する手段が欠けていて、その議員が何も活動していないではないかというような意見に要約されていたんではないかなということ、ちょっと反省しておるところですけど。そういう面で広報のあり方等も議員活動が見えないという点で何とかクリアして理解を求めたいと思いますし、また町政と住民生活との解離に対して大変離れているというのを町民の方が感じておられるんではないかなという気がしております。その辺もやはり以前昭和初期というか、平成の頭からでもいいわけですけど大変自分としても生活環境に関して町内改善はされているわけです。環境に関してはですね。道路整備であったり福祉の方であったり、今夜から大雪になるということですけど除雪体制にしる、これは大いに今まで議員活動で要望とかそういう成果でもあったではないかというような気がしております。それと他に自分は無投票で出て2年経ったわけで、押してくれる方があったわけですけど選ばれて選挙という形で選ばれて出たわけではありませんけど、それによって議員活動を疎かにするような気は毛頭持っておりませんし、その責任感に関しては十分持っているつもりでおります。その辺が十分理解してもらえていないというのは、自分の不徳の致すところですけど、それに対して若干住民の方、自分の手の届く所、足を運べる範囲ではありますけど理解を求める活動をもうしばらくちょっとやっていきたいなという気しております。

○坪倉委員長　他にありませんでしょうか。村上議長。

○村上委員　私は今の日南町議会の取り組み等々については、先般の報酬改定の話をしたときにも多分鳥取県下の中で、どこにも負けていないという自負心だけは持っています。そこら辺の活動を見ていただいてもなおかつ足りないと言われる町民の皆様方の、本当にどういう具合にすれば認めていただけるのか。そこら辺の本当の真意の声が聞きたいなと思うわけですけども、その為には町民の皆様方の為に議員として政策立案の会を作っていて、発議の本数も多分他の町村に比べれば十二分にあると思っていますし、報酬の時にも意見参考人であったり意見陳述人を求めていたにもかかわらず誰も応募の手が上がりなかったという点、そして意見交換会の場というものを持っておっても、なおかつそういったような団体からの声も1個もかからない。それが議会としてのアピールが足りないという部分があるのかもしれないけれども、

他の町村から比べればうちの議会は絶対に負けていないという自負心だけは持って、仕事をしている皆さん方にはしていただきたいと思っていますし、出来れば住民の皆さん方からこういったようなところがお前ら足らんじゃないかやという部分があるとすれば、そういったような指摘をいただける機会を設けてありますので、そこら辺のことを皆様方から報告をいただければありがたいのかなと思っていますので、今以上にこの状況からたぶん議員さんになられた方も側で見ておられた時に比べれば、議員として役場に出てくる日数についても、相当量こんなこともあって出にゃいけんだなという部分もあつたらうと思っていますし、3ちゃんねる等々の中にもやっぱりそういうところも映していただきたいなという要望をしてあるわけですけれども。それが十分でないのかもしれませんが、もっともっと私としてもやれるべきことがあるのかもしれませんが、もう少し町民の皆様方から具体的な意見が出てくれば、本当にありがたいのかなと思っています。

○坪倉委員長 久代委員。

○久代委員 今議長の発言に関して言えば、例えば執行部が行う映像は3ちゃんねるでもいろんな行事が沢山出て、二元代表制で車の両輪の一方の議会の活動は議会の本会議や常任委員会こうした特別委員会の再放送・生中継はあるけれども、いろんなその他もろもろの議員としての活動をもうちよっとリアルに同じ様な3ちゃんねるあたりでもきちっと放映してもらおうという同僚委員も副委員長の古都委員もそういうことを言っておられましたけども。見えないというのは今映像の時代ですから、そういうのもちよっと議会から変にアピールというわけでもないけれども、実際に行っていることをある程度ちゃんねる日南あたりでも、番組を作ってもらうのは必要かなと思います。

○坪倉委員長 古都副委員長。

○古都副委員長 今久代委員から紹介をいただいたわけですが、実は議会運営委員会として広報活動、いわゆる執行部の広報活動の中に議員が出ておる姿も是非伝えて欲しいという申し入れを昨年しております。あちこちで意見が出るわけですけども、子供達の運動会に行けば保護者の方には来ておるなど分りますけども、興味のない方であったり関係のない方、戦没者の追悼式でも関係のある方は来てくれておるなどというのは分りますけれども、そういった非常に多局面に実際議員は出てお話を聞いたりしておるわけですので、それが全部網羅出来るかどうかは別といたしまして、より広

い日南町が持っておりますチャンネルを活用していただく。それは時間の制限とか色々ありましようけれども、議員はこういうところにも顔を出したりとかしておるといことがわかるような、画像構成は出来ませんかというお願いをしたいという申し入れを議会運営委員会としてしておるところでございます。それがいつの段階で意識していただいて、我々が思うような画像が出るのかどうかは編集の問題ですので、そこまでは立ち入ることは出来ませんが、一応私の立場としては議員の皆さんがこんなこともしておられますよと。現地にも行っておられますよと。こういう文化活動には得意なこういう議員さんは欠かさず行っておられますよとか、そういうようなことがお伝え出来れば今回のアンケートも若干表現の雰囲気が変わるのかなという思いでおりました。ですので、そういったことをしとるといこともご理解いただきたいと思ひます。

○坪倉委員長 他にありませんか。山本委員。

○山本委員 先程議長も言われましたけれども、他の議会をなかなか知りませんが、日南町議会とすれば一生懸命やっておると私も思っています。ここでいろいろなお叱りとか意見をいただいておりますけれども、普段皆さん議員活動をされた中でテレビを見たけれどもあれはどうなっておるんだとか、色々問い合わせとかもあると思ひます。やはり感心のある町民の皆さんはこういう傍聴も出来ますし、テレビでも放送しておりますので、議会の活動ということについては関心を持って見ていただいておりますのではないかなという気がしております。このお叱りのことは当然真摯に受け止めなくてははいけませんけれども、私の個人的な感覚としてでも例えばあのことについてはテレビで言っとったけれどもどうということだろうとかいことをちよくちよく聞かれますので、活動とすればやっぱり顔と顔をつきあわせていろいろな個人の議員活動としてもやっていけば良いんじゃないかなと思ひています。

○坪倉委員長 他にありませんか。どんどんこういう機会ですので。荒木委員。

○荒木委員 町民の皆さんにアンケートした結果を見ておりますと色々な意見が載っております、私も仕事上町内の方とあった時とか会合であった時とか、ざくばらんに話をしております。そうするとその中で集約すると大体意見交換会とはまた逆の、実はアンケートに近いような回答が実際には多いわけですが。それを踏まえた上で以前は意見交換会の時には専門的な人も必要であるし、1人あたり議員の負担も当然増えるわけでありまして、意見を集約するにしてもやはり沢山の意見を聞いた方が良

いので、定数12人というのは確保していきたいと思っておりましたけれども、やはりこうやって色々意見を聞きますと定数のことも削減についても、少し考えていかなければいけないんじゃないかと考えております。それともう一つ皆さんで議員の姿が見えないという意見もありますけれども、逆にあなたそこに居ましたよとか、逆にそういう意見も沢山聞きますのでね。活動が全て町民の皆さんに見えていないというわけではないと捉えております。定数に関してはもう少し考えていきたいと思います。

○坪倉委員長 大西委員。

○大西委員 私、今2年前に無投票で出た方ですけども、今回アンケートを取られて逆に良かった面が出てきたかなと。というのは議会だよりとかちゃんねる日南で放送されている率が思っていた以上に良いなど。議会だよりの場合はよく読む方が38%、4割、たまに読む50%と要するに90%の方が議会だよりを見てたと。それからちゃんねる日南についてはよく見る、たまに見るが80%。やはりそういった広報活動でまたそれに対して町民の皆さんが見ておられたということについては、大変良かったというのはこのデータを見まして思います。ただいろんな皆さんの100名近い方のコメントを見て、逆にいろんな反省する点は多々ありますが、この定数をどうあるべきかという中で、一つは関心を持っておられたんだと。私は2年前それまでの3年、4年前はやはり関心を持ってテレビを見たり議会だよりを見ておりましたので、そういう方が沢山おられたということは大変良かったなと感じました。アンケートを見た結果ですね。

○坪倉委員長 他にはありませんでしょうか。近藤委員。

○近藤委員 この中に無投票とか定員割れに対する懸念をされておる意見がたくさんあって、それが定数を減らしたらいいじゃないかという、要するに無投票なら定員割れするぐらいならという意見が多々見受けられましたけど、やはり選挙というか議会活動というのは立候補の自由というのもあるわけですし、誰が立候補されて誰が議員になられても良いという日本の中のシステムであります。極論いったらそれは無投票になるから出るという考えもあってもいいわけですし、ならあれがいけんと思ったらあれの考えとは違うなら、自分が代わりに出て自分のやりたいことをやるという方が居られても良いわけですし。やはり自分の今の考えでは、やはり誰が出てもいいというような門は広く開けておくべきではないかと思っております。無投票であったり定員割れするというのはその時期時期のものでありますし、やはりより多くの意見を町政に

近く届ける為には、やはり門を広くしておく必要が、町民の為になりはしないかという気では今のところあります。

○坪倉委員長　　他の方意見を述べていただきたいと思います。恵比奈委員。

○恵比奈委員　　議員としての姿が見えないとか、活動の実態がないとかいう意見がかなり多かったわけですが、それはちゃんねる日南で執行部と同じように姿を映してもらえないから分からないという面もあるかもしれませんが、それよりなにより自分達に密着した政策提案とか、実現する自分達のためになることを実現してもらっていないという思いが町民の皆さんの中にたくさんあるのではないかと思います。一つに政策提案の条例はどうかという質問に対して、評価しないという意見の方が多いんですよね。ですので、私達議会は町民生活のためにこの条例を提案して、町民生活のためと思ってやってきたわけですが、それを喜んでくださった方もいるけれども、半数以上の方がそれよりもっと他にあるだろと思われているかもしれないということ。そういうことを考えた時にはやっぱり町民の意見をより幅広く聞いて、それを町政に反映していくということが大切であろうと思いますし、今そのことが少し30%の回収率のその方たちに対しては出来ていなかったのかなという反省をしております。それから私も地域の人に言われることなんです、今の議員は全町のことを考えなければならぬので、自分の出た応援してもらった地域のことだけを考えて行動は出来ないんだらうと聞かれます。私はそうですねそれは言っております。出していただいた方たちのことを常に考えますけれども、それが日南町全体のバランスの中でどうなのかということ、町政全体を考えていくということが12人になってしまった今、非常に大切なことになっておりますので、自分達の地域のことだけ自分達の団体のことだけを言っていられない議会になってきた。なのでせつかく出してあげたのに何も答えてもらえないと思われている方も多いのではないかと思います。そこらへんが出てあげたのに何も返してもらってないなということに繋がるのではないかなと思います。そして議員が必要ないと言われることの一つには、例えば昔は議員を通して町政に何かを言葉は悪いですがお願いをして実現してもらおうというパターンですが、議会改革の中で口利きはしないということにもしましたし、圧力をかけてはいけません。町政が今私は日南町の町政はいい具合に動いていると思うんですけれども、自治会長さんやまちづくりの会長さん方が一生懸命働いて下さって、地域の要望はしっかり集めてそれを持って出て、そのことでまた町政が動いていくという流れがきちんと出来

ています。なので、議員はいらんじゃないか議員がおらんでも何でも出来ると思われていると思うんです。私たち議員の役割、議会の役割というのはやっぱり最終的な決定機関ですので、そこらへんのことを町民の皆さんに分かっていただく努力をすべきだと思いますし、そこでまた問題になるのがこの意見の中にあるのに、町政をチェックしていないんじゃないか、何でもかんでも賛成しておるんじゃないか、黙っとるんじゃないかというふうに思われているわけですね。けれども、執行部が提案したこと全てに反対しなければならない、理由もないのに反対するというのもやっぱり議員としてこのことはいいなと思うことはよしとするわけですよ。そこらへんのこともやはり町民の皆さんの理解を求めるといことがやはり大事だと思います。議員定数ですけれども、先程近藤委員や久代委員の言葉の中にもありましたけれども、やはり立候補する人が少なくて定数割れになるからと言って、安易に減らすべきではないと思います。やっぱり委員長も言われましたが、民主主義の本旨として多様な意見を戦わせるのが議会だと思います。町民の意見交換会の時に町民の意見の中にもありました、120人が100人になるのではない。12人を10人にするという大きな違いだと言われた方がありました。やはりいろんな立場を職業ではない私達議員が、いろんな日々の生活の中からもいろんな課題を持ち寄った人たちが、一生懸命町政の為に12人が意見を戦わせて方向を出すということは、私は12人という人数は最低の人数だと思っております。これ以上少なくなるとどうしても多様な意見は出にくくなる。なので、12人は、現状維持は最低限かなと思っております。そして後は、ちょっと長くなります。すみません。町民の意見の中にもありました、議会に本会議とか委員会に発言したいんだと。町民が発言する場面があってもいいのではないかという意見がありました。私はそういうこともこれからは検討していくべきだろうと思います。やり方はこれから考えていいやり方をしていけば良いわけですけれども。やはり多様な意見を戦わせるという前段の中で、やはり出て来てこのことについては意見を言いたいという人がいれば、それは歓迎すべきことだと思いますので、是非その仕組みを考えていきたいなと思います。以上です。

○坪倉委員長　久代委員。

○久代委員　恵比奈委員の発言に関連して、この意見のまとめにもありますが、広く町民の意見を聞くというこのさっきもまとめもしましたが、まさにこの議員定数の問題だけに絞ってシンポジウムか皆さんに呼びかけて3月議会の会期中でもいい

し、どこかの時点でそれだけに絞って1ヶ所で会を開くのも、皆さんもう一度言いたいことがあるという人に集まってもらうのも一つの手法かなと私は思いますけれども。今後の特別委員会の中で検討してもらえればなど。こういうアンケートの結果を踏まえて、再度皆さん議員定数について自由に討論出来る場を設けますというものも一つの方法じゃないかなと思います。

○坪倉委員長 他に意見ありますか。足羽委員。

○足羽委員 皆さんのアンケート調査の結果で、自分に該当するようなこともあるなと思って反省もしておりますけども、特にこれから若い議員を出すにはどうしたらいいのかなというようなことなんですけども。ついこないだですけど、何で見たか忘れたんですが、海士町の方でUターンの方で私は町長になるんだというような新聞ですかね、見ました。やはり若い方達が町政に対して関心をどんだけ持っているか、子供の頃町をどんだけ把握しているか、というか勉強しているか。そういったことも必要じゃないかなと感じております。どんどん日南町も小学校、中学校、高校と日南町のことを勉強していただいて、いずれは外に出たにしてもまた帰って来ていただいて、私は町長になるんだとそのぐらいの勢いのある人を育てていけたらいいなと感じております。

○坪倉委員長 他にありますか。まだ時間もありますので発言をしていただきたいと思っておりますけれども。先程、久代委員から今後の進め方についての発言もありました。すでに確認をしておりますように、3月議会中には結論を導き出したいなと思つとるところであります。皆さんどうでしょうか。このことについて意見を伺いたいのでありますけれども。昨年春から色々と進め方等に議論をしてきました。その上において意見交換会、そしてアンケートという方法をとってきたところではありますが、久代委員から再度町民に集まってもらってという発言でありましたけれども、私はこれまでの進め方の中でこれから先は正しく住民を代表される議員の発言によって集約を合意形成を図っていけば良いのではないかと考えますが、いかがでありますでしょうか。

○福田委員 委員長のいう通りでいいです。

○村上委員 異論全くなし。

○坪倉委員長 日程的なこともさること、広報する期間、開催する期間、3月定例会ということからして日程的なことの制約があります。それを理由にはしませんけれ

ども、やっぱりこれまで町民の発言の機会を十分に確保してきたとっておりますので、これから先は先程言いましたように住民を代表する各議員の議論で収斂させていきたいと思いますがそれでよろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○坪倉委員長 近藤委員。

○近藤委員 それで自分いいと思いますけれど、要するにこういった形でアンケートで多くの方に意見をもらったわけで。最終的には自分達の議員としての資質といふかな、責任の基で決定するわけですので、これだけ沢山の膨大なアンケートの意見を聞くことが出来ておりますので、その中で自分の意見をまとめていくことは十分出来ると思いますし、また自分の議員活動の中でちょっとわからないことがあったら、その支持者であったり町民の方に個々に意見を伺って自分の意見をまとめれば、みんなの前で意見を言うことが出来ますので、自分は十分だと思います。

○坪倉委員長 既定の方針の通りに進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。その他ありますでしょうか。久代委員。

○久代委員 ちょっと恵比奈委員、議員提案のアンケートの数字の読み取りが違ったりやせん。誤解を招いたらいけんから、3ページの日南町議会の政策提案をどのように評価されますかという項目でしょう。

○恵比奈委員 その項目。

○久代委員 ある程度評価するが42と大いに評価するとで45でしょう。ある程度評価する、大いに評価するが多いじゃない。わからないは制度そのものがわからないのであって、せっかく議員提案でやっておるのにちょっと最初の議長の話と齟齬がるような気がしたから、正しくやっぱり伝えといてもらわないといけんなどというふうに。

○恵比奈委員 すみません、分かりました。それは分かりました。わからないは入れないと思われるのも一手と思えますが、私はこのわからないもしっかりと数にカウントすべきだと思います。わからないということは知らないし、自分には関係ないのでいいのか悪いのかわからないということだと思いますので、それは町民のための政策になっているとは言い難いと思えます。

○坪倉委員長 この辺の分析の仕方は色々あるかと思いますが、ただ設問についても若干の疑義がないわけではなくて、いわゆる住宅改修、廃屋解体、がんばる農家、意欲ある農家支援ということが例としてあげてあります。その他にも総合計画策定条

例とか再生可能エネルギーの促進条例とか、いきいき定住条例もそうですけれどもそういうのがもっと序列はないんですけれども、基本的な政策提案をしておりますのでそういった記述の仕方にも若干の問題があったのかなと後から思ったところでありませけれども。いずれにしても実数はこういうことだということでご理解をいただきたいと思います。他に発言はありませんでしょうか。近藤委員。

○近藤委員　　今度広報委員会が特別委員会から常任委員会になるということで、この議員活動が見えないという点に関して、常任委員会化される広報委員会でもっと自分とすれば、委員会活動の広報にもう少し個々の議員間討論を。議場でされるよりも、この委員会でされる議員間同士の討論が多いと思います。そういった面をもっと町民にアピールしていく必要がありませんかということで、やはり本会議場では賛成討論、反対討論した後に賛否を問うというのが大体筋。これは国会でも同じ様な感じでテレビ放送されております。多くの時間は、委員会活動に対してか国会でも放送されております。町議会もやはり委員会活動をもっと前面に出した広報をしていく必要があると思っておりますけれども。

○坪倉委員長　　議会広報について。久代委員。

○久代委員　　現在の議会広報、同僚委員も議会広報の委員ですけれども、やっぱりこのページ数ですよ。ページ数を何ページで立てるかということで、おのずから広報の内容が制約されるということもあるので、今度広報のコンクールの表彰式もあって本町は佳作ということになるようですけれども。やっぱり本当の広報活動、今近藤委員が言われたようにもうちょっと多面的に、まだまだ掘り下げた報道をしていく必要があるのかなということと、もう1点さっきから出ていたちゃんねる日南の使い方でも広報として検討してもらいたいなと思います。所詮年に4回ですからね。リアルタイムで放映するテレビとは全然違います。その点、今後検討していきたいと思います。

○坪倉委員長　　近藤委員。

○近藤委員　　要するに意見を述べる議員と述べない議員がおるということ、それは議会広報では一般質問しか個人の名前の意見として出る機会がないということ。そうでなくて、やはり同僚委員みんな色んな個々の考えを持ってこの委員会では発言されておるわけで、そういった面をもっと広くアピールしてみんな今11人ですけど、その委員が各々それぞれの考えを持っておるということをおるということを町民にやはり知ってもらう。それによって多様な意見が議会によっているんだということも、やはり広報していく

必要がありはしないかということで委員会をもっと広報して欲しいという願望です。

○坪倉委員長　他にありませんか。今、丁度委員会のことが出たわけですが、常任委員会で12名で2つの委員会です。仮にですけども、定数を削減して少なくなった時の委員会活動というのはどういうふうを考えられますか。日南町議会議長も常任委員会に入っていますが、全国議長会の活性化方策の指針というか方策の中では、議長は基本的に常任委員会に属するなという方針は以前から示されております。そういうことも踏まえて例えば11人のケースになったとき、10人になったとき、8人になったときと想定した的に常任委員会ってどうあるべきだとお考えでありませうか。恵比奈委員。

○恵比奈委員　少なくなれば、私は常任委員会は一つにすべきだと思います。ですから活動日数も倍になるわけですね。

○坪倉委員長　他の皆さんはどうでしょうか。

○久代委員　私は2人減らすという前提に立っても、例えばですよ、そういう今仮の話も出ましたけれど、確かに予算、決算は全員でやってますけども、やっぱりある程度専門的にする常任委員会制度は残しておくべきじゃないかなと、今2つですけども。全部を全員でやるということは非常に皆さんの任も増えて、今あったように大変じゃないかなと危惧します。

○坪倉委員長　大西委員。

○大西委員　常任委員会というのは残しておいて、例えば議長は外すという前提であれば、外した上で全員で。委員長、副委員長だけ変わると。そういう時は全員一緒に。委員長、副委員長を変わると。ただし全員でやるという方法ですね。

○坪倉委員長　他にありませんでしょうか。近藤委員。

○近藤委員　私はやはり委員会は2つ。要するに一つになったことを頭の中で想像も出来ないし、想定したこともありませんけれども、今まで自分が経験いた中では常任委員会が2つあるというのが普通当たり前で、実際それが十分に機能しておるし、やはり全部の所管の課をもってそれを委員会として取り上げるというのには自分としてはなかなか勉強する機会もないし、自分としては能力的に無理じゃないかなと。今この半分の所管をより深く掘り下げるという方が自分とすればいいじゃないかなと思っております。

○坪倉委員長　山本委員。

○山本委員　ればたらの話を今しとるわけですがけれども、10名になった時にそのことを考えればよくてですね、今そのことを議論しますと広報の委員会を常任委員会にするということの矛盾をすごく感じるので、例えば減った時にそのことを協議していただければと私は思います。

○坪倉委員長　もちろんそういうこともあると思いますけども、定数を検討する議会活動をより充実させていく中で、適正な定数を求めるという知見に立った時には、やっぱり仮設の議論も一定程度あってもいいのかなと思っております。1委員会にすることの弊害というのは、例えば本会議から付託された議案、陳情等の審査が全て委員会で決定してしまうという。予算決算もそうでありますけれども、そういうことの弊害というのも一つあると思います。2つの委員会にするということになると議決件数が少ない中で決定をされるという弊害も一方ではあります。もう一つの考え方は、委員会複数を置きながら各議員が複数の常任会に所属をすると。全員が2つということではなくても、特定の人数が議会広報も含めた、具体的に言いますと、3委員会を12人が2つずつ所属をするというやり方もあるのかなと思います。そういったやり方は色々あると思いますが、そういったことも委員会活動、議会活動に適した人数というのも今後最終判断の中には加えていただきたいなと思っておるところであります。山本委員。

○山本委員　委員長は議員としての経験も長いわけですが、日野町、江府町10人でやっておられます。その例を教えてくださいなと思います。

○坪倉委員長　分りません、議長。委員会のことについてはひとまずおきまして、古都副委員長。

○古都副委員長　非常に重要な話で皆さんそれぞれのご意見も出ました。副委員長でもありますけれども、私もここで一つにはこのアンケートの状況、結果状況についてと、もう一つは議員定数についてという2つの今考えておるところを申し述べて討議に参加したいと思うわけですが、アンケートの結果を私なりに色々ゆっくりと見させていただきました。しかしながら最初の議長の方から紹介がありました日南町議会の現状について私も一昨年でありますか、全国の町村の活動状況の評価の中に30町村ですか入って、なおかつ5つの特別表彰1番なのか5番なのかそこらへんは分りませんが選ばれたと。やっぱりそれは現職の皆さんもですが、それ以前の退員された議員さんあたりからの積み上げで、活動的には非常に高い評価を受けておると私も感

じておるところであります。個別についてはこちらの広報不足があったりとか、或いは失礼ですけども町民の皆さんの安心度におけるテレビを見たり、便りを読んだりという部分も全員が同じようにされとるわけではないですけども。私はアンケートについては真摯に受けとめて、改善すべきは改善していかなければいけませんけれども、評価的にはもうちょっと高いのが出るのかなという思いを感じました。それが1番目でございます。議員定数についてですが、これまで議員報酬から始まって数年間出かけて、住民の皆さんの意見を聞いたりとかして議論もやってきたわけでございます。立場上、今ここにおる我々も次の選挙には出ないとかもう1回出たいとか、新たに次の選挙には準備しておると、いろんな思いのものが一応そういった部分を抱えながらこの議論をするは非常に苦しいところがあるし、しゃべりにくいところがあるんだろうと正直なところ思っております。しかしながら、これまでの議論の中で日南町議会では、やはり将来若い方の意見が含まれた議会活動がしたいという略の積み上げがあったわけございまして、定数を考えてみますと減らした場合には今よりも相当厳しい選挙をやらなければいけないという問題があつて、報酬だけにかかわらず若い方が出にくいという状況もあるかと思ひます。一方、議員の中には今日の資料にも、議会活動と議員活動という区分けで綺麗に整理したものをいただいたわけですけども、実際にはそれ以外に政治活動を担っておる議員も約半分おるわけですし。それはそういう登録をして活動しておる者もおるわけで、そういう機会でもこういう話は出てくるわけで。そういう状況或いは今日の話の中にも出ましたアンケートにもありますが、地域代表的な考え方或いは凝視的な代表の考え方、そうじゃなくて自分のこういうことがしたいという思いで出ておる議員、いろんなパターンがあるわけですし。そういったことを考えた時にあと1ヶ月ないわけですけども、約1ヶ月ですか。もう一度自分も整理してどの数字が丁度いいのかなということは考えていきたいと思っておりますが、いずれにしても前に進む議会にしていかなければいけませんので、そこら辺もやっぱり斟酌、議員とすればするべきかなと今日現在思っております。

○坪倉委員長 他にありませんでしょうか。せつかくの機会ですから議論を出して、判断にも行きたいと思ひますが。久代委員。

○久代委員 アンケートの7ページの印刷された、今日配布された資料です。意外と議員は投票で選ぶべきと、その他の町民が議会に対しての無関心の現れ、議員の魅力がない為、この2、3、4と併せればやはり今の無投票の状況にある意味リアルに反

映した数字だなど思っていて、必ずしも投票で選ぶべきだというのより、やっぱり議会そのものについてよく知られていない、魅力がないというのがどういうふうに捉えられてるのかなと、ちょっと私自身も分りにくい面があって、前回無投票だったから無投票だめだ、定数を減らせばみたいな話もその中から出てきた経過から見ても、さっき冒頭私が言った定数を減らしても結局議会に対する関心がなかったり、魅力がなかったら結局同じ状況の繰り返しじゃないかなとこのアンケートの分析を見て思いましたけど。ちょっとコメントで皆さんどうでしょうか。どうも思われますか、定数と選挙との関係。

○坪倉委員長 近藤委員。

○近藤委員 よく国会の方でも1票の格差というのが取りざたされておられます。

自分もこの広い日南町の中において平等という観点から見ると、やはりこの中心地域の方とそれから周辺の方と果たして普通の生活が平等であるかないかということ、それをいかにこの町政を平等に届けるかということもある意味、ただ人口だけでなしに日南町という広大な土地を持った議会であるということで、議員定数もある程度論じてもいいと思いますし、そう言った意見もアンケートにあったわけですけど。その辺はやはり大いに加味して考えないと、議員定数が減って本当今日南町いろんな谷があって谷の奥に高齢者であったり弱者が沢山住んでおられるわけで、そういった方になるべくなら足が向いたり声を聞いたり拾っていくというシステムはやはり残していく必要は十分あると思っております。

○坪倉委員長 今回の発言の関連で言えば、アンケートのコメントの中にも校区1名とか今校区はないんですが、地域1名とかいうような意見もありましたが、実際今の公職選挙法の上でそういった定数の決め方とか、選挙のやり方というのは出来ませんので、そういう意味からしても定数自体を減らすことによって地域からというのは、出にくくなるという実態はあるのかなと思います。その前の久代委員の発言について言えば、まさしくそういう町民の無関心の表れなのかなというところがありますけども、そこを議会なり議員に求められても非常に厳しいところではありますが、やっぱり議員としてオピニオンリーダーと言いましょか、政治家としてそういったところの意見発信というのにも必要なのかなと思います。ちょっと名指しで申し訳ないですけども、例えば伯耆町は、町議会議員、町長選挙3回とも連続無投票で町長も議員も決まっております。そういった他町の事例を見た時に、本当に伯耆町の住民自治ってど

うなんだろかなという疑問を感じざるを得ません。疑問であります。それはそういう実態を見た時に確かに地域課題等それは議員が地域課題等の集積をされ、町長は町長部局でしっかりされておって、大きな課題というのはないのかもしれませんが、より政策をより良いものにしていく。そして最終的な議決の中で議決権の中で町民意を反映させるという、いわゆる町民が町政に関わる姿勢としてもう少し紛糾を、よそのことながら思うわけでありませうけれども、やっぱり日南町においても本町にあってやっぱりそういう意識というのは町民の方に情勢をお願いしたいと思ひますし、一方で議員として先程も議員の姿が見えないという意見もアンケートや多数の意見の中にあるわけですが、それは例えば何かの行事に出るかということではなくて、やっぱり議会の中での発言質問これらによって政策を高める議論がやっぱり少ないではないかというふうなことだろうと私は感じております。具体的な条例提案じゃなくたって、予算質疑等によってそれに対する町長答弁によって政策を高めるという、決定方針が決まるということもありますけれども、やっぱり議員間同士あるいは議会と執行部の間での政策をより高めるための議論が少ないのかなというふうには全体を通して私は感じておるところでありまして、それは政策を決定するまでの過程としての議論、そして表決による決定、そしてそれを町民へ説明する責任、ここらあたりの議員の職責あたりについてももう少し議員として現職の議員として努力すべき点はあるのかなと感じておるところであります。そういう私の雑感でありますけれどもそういうようなことも思ったところでもあります。今後3月定例会中の委員会で皆さんの意思表示を明確にさせていただきたいと考えておりますが、それでよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○坪倉委員長　　そういうことで今後進めさせていただきたいと思ひますが、この際発言があればどなたからでも結構ですが。ありませんか。ではないようでありますので終わりにしたいと思ひますが、今日ファイルに付けました神原先生の文章とか議員必携等改めて確認をいただきますと共に、アンケートや議会報告会・意見交換会でいただいた意見等を再度十分に各委員が精査いただきまして、結論が導き出せるようによろしくお願ひをしたいと思います。本日の委員会は以上を以て終了致します。ご協力ありがとうございました。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 年 月 日

委員長

副委員長